

統計データを取り巻く現実

- 所管の統計業務は実査のみに終始し手一杯
- 統計データがきちんと整理されていない
- 庁内的なニーズに対応し切れなかった
- 庁内の各々の業務上作成したデータも埋もれている

統計データベースシステムの構築と利活用

データマップから分析する福井市の姿

福井市 企画政策部 情報システム室

システム構築の契機

- 庁内に蓄積されている統計データを
明日の福井市をシミュレーションし都市間競争に活用したい
- 国の指定統計調査(56)の成果
書籍からCD-ROMへ(電子データ化=加工が容易に)
 - 市独自の統計データ
各業務で作成・整備
 - GIS技術の活用

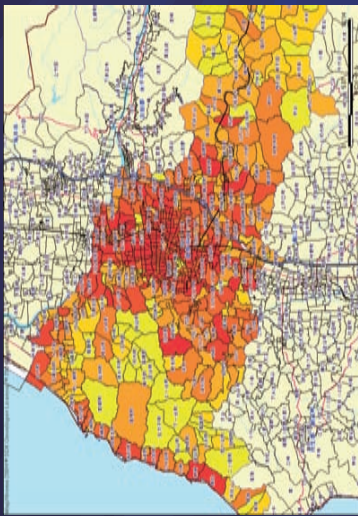
システム化のメリット



関連性?
地域特性?
全体像?

「表」という表現では
それらの理解は困難

システム化のメリット



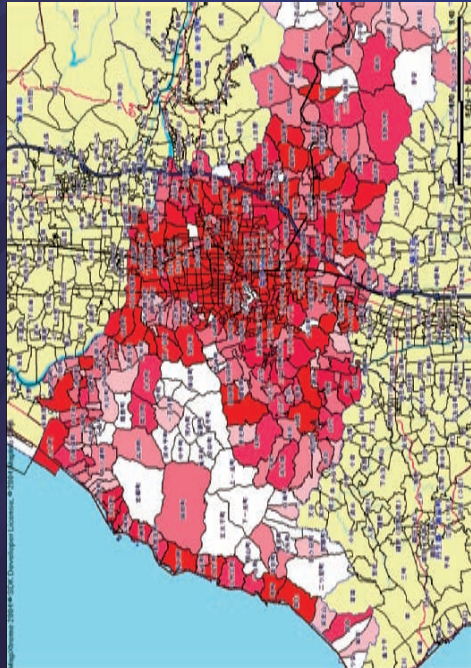
GIS技術を用いてデータマップ化することで視覚的理解が可能に



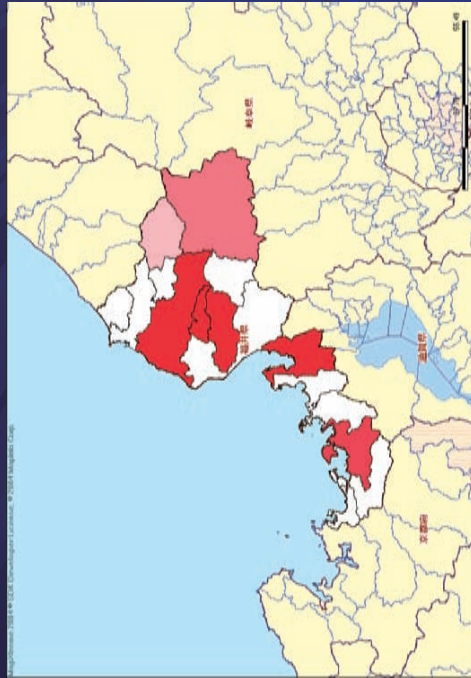
システム化のねらい

- 統合型GISで整備したデータの活用
- 全職員が利用できること
- 操作性・処理速度が満足できること
- 部署間のセキュリティに配慮
- ローカルデータが取り込み可能

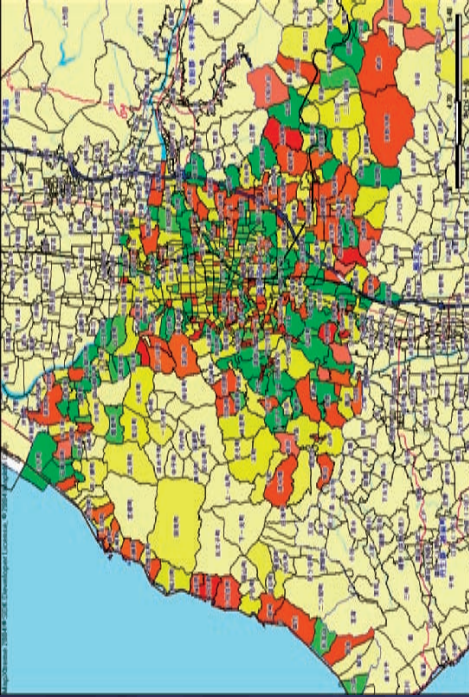
町丁別人口分布図 (H12国勢調査)



福井県内市町別工場数 (H15工業統計)



総人口・昼間人口(オーバーレイ)
(H12国勢調査)



今後の課題

- 職員のスキルアップ(分析手法)
- 職員への啓発
- 分析機能のバージョンアップ
- 統計データの維持・更新

ご静聴ありがとうございました